



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

カタール：副首長の任命

タミーム首長は、首長令第4号を発出し、異母弟のアブドゥッラー・ハマド・ハリーフ・アール=サーニーを副首長に任命した。アブドゥッラー氏は1988年2月生まれで、現在26歳。ハマド前首長の第7男で、母親はハーリド元内相の娘のヌーラ妃。ジョージタウン大学で国際政治学を学んだ後、2011年12月より王宮府長官（閣僚級）を務めていた。また、2013年7月には世界でも有数の運用資産を持つカタール投資庁の副総裁に任命された。2012年3月、アティヤ家の女性と結婚した。

また、タミーム首長は同日に首長令第5号を発出し、ハーリド・ハリーフ・アブドゥルアジズ・アール=サーニーを王宮府長官に任命した。

評価

副首長という役職は、国家のNo.2として、首長の政務執行を代行するポストである。2013年6月にタミーム首長が即位して以降、有事におけるカタールの政務執行の代行者については不明な状態が継続していた。2014年4月には、首長令第1号が発出され、タミーム首長が海外にいる際にはアブドゥッラー氏が権限を代行するよう命じられていたが、これはあくまで臨時の措置であった。

カタールの憲法では、有事の際、皇太子が首長の権限を代行することが認められている（第11条、第12条）。他方、皇太子は、首長が自身の息子の中から指定することになっているが（第8条）、タミーム首長は34歳とまだ若く、その長子は6歳になったばかりである。王位継承の際には、新たな首長が18歳以下の場合には王族評議会が摂政評議会を組織し、後見することになっているものの（第16条）、これは首長在任時における皇太子の政務執行代行を補佐する機関ではない。皇太子に権限を委譲することができない場合、首長は王族の中から副首長を任命し、権限の一部を担わせることができることとなっている（第13条）。

今回、正式に副首長として若干26歳のアブドゥッラー氏が任命されたことは、慣例上、首長より年長の人物が副首長に任命される可能性はなかったとしても、カタール王家の世代交代を印象付けるものであった。同人の政務能力や政治的意向については未知数な部分が多いが、今回の人事によって、タミーム首長の支配体制は強化されたと見るべきだろう。

（村上研究員）